



# 秋厚労ニュース

NO1820号

2018年1月29日  
秋田県厚生連労働組合  
秋田市山王5-4-2  
TEL 018(864)3341  
FAX 018(864)3349

# 精神科 常勤医師内定<sup>2人</sup>

## 鹿角

「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」が活動を開始してから12年。県・市・町・病院との5者で作った「医師を求めるチラシ」は、全国道の駅など406ヶ所に配置。毎年追加分も配送しています。そのチラシを見た精神科の医師2人が、今年4月から常勤として赴任することが内定しました。住民運動の大きな成果です。

鹿角の医療を語る会(2012.5.22)



# 12年間に及ぶ住民運動の大きな成果

「鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会」は、発足から12年。これまで、大小の住民集会11回、医師を求めるチラシ設置全国406ヶ所、県知事あての署名2回、医療関係者との懇談43回、他にも、「交通、子どもの医療、お産」などに関する運動、さらに、懇談・調査・学習・見学・要請など、あらゆる活動を続けてきました。幹事会だけでも14回(1月)になります。

## 2年程前から手応え

鹿角の「医師を求めるチ

ラシ」は、一軒一軒歩いてお礼を言いながら、また、遠方は郵送で、毎年「追加分」を配布。これらの地道な運動の効果は4年目あたりから出始め、チラシやホームページ等をきっかけに、複数の医師が応援診

## 今までお世話になった方々との関係も断ち切らない

## 今までもお世話になった方々との関係も断ち切らない

そして、昨年、ついに「病院や地域を見学させてほしい」という医師が何人か出現。病院も丁寧に対応し、話し合いを重ねた結果、その中から2人の医師が常勤として赴任することが決まった次第です。

15日かづの厚生病院・院長に報告するなど、意欲的に動いています。

## 住民の運動は続く

「市民町民の会」は、思いのほか冷静に事態を受け止めており、赴任する医師を大歓迎する一方で、「今までお世話になった方々との関係を断ち切らない」など、6項目の「やるべきこと」を確認(下表)。昨年12月11日には岩手医大・精神科医局と懇談。その結果を1月

「市民町民の会」のコンセプトは「地域で医療を支える」です。地域の患者家族会が「精神疾患の学習会」を継続的に開催するなど、素地は出来ています。より具体化するために「こころの健康センター(仮称)」なども視野に。さらに「地域調査」も進行しています。

療を申し出てくれるようになりしました。2年程前から医師の問い合わせも急に増えたため、「市民町民の会」は手応えを感じ、幹事会で「医師を迎え入れる体制」についても話し合っていました。

産婦人科・常勤医師の空白化が現実視されている鹿角。住民は、運動の輪を広げ、今度は産婦人科の医師を探そうとしています。出産数の増減が影響する分野

精神科の常勤医師赴任にあたって「市民町民の会」としてやるべきこと

- ☆ 今までもお世話になった方々との関係を断ち切らない(懇談、花束、礼状等)
- ☆ 常勤医師赴任を伝え、協力に感謝するチラシ、ポスターなど(地域内外)
- ☆ 院長との懇談(病院としての方針の確認等)
- ☆ 赴任する先生たちと心を通わせる(懇談、「お話を聴く会」など)
- ☆ 「地域で医療を支える」施策の具体化(「こころの健康センター」など)
- ☆ 今までの活動を整理して今後に生かす(雑誌投稿など)

だけに、それは、まさに「人口問題」との闘い。住民が「地域をつくる」本格的な取り組みが始まるうとしています。「市民町民の会」の運動はさらに続きます。